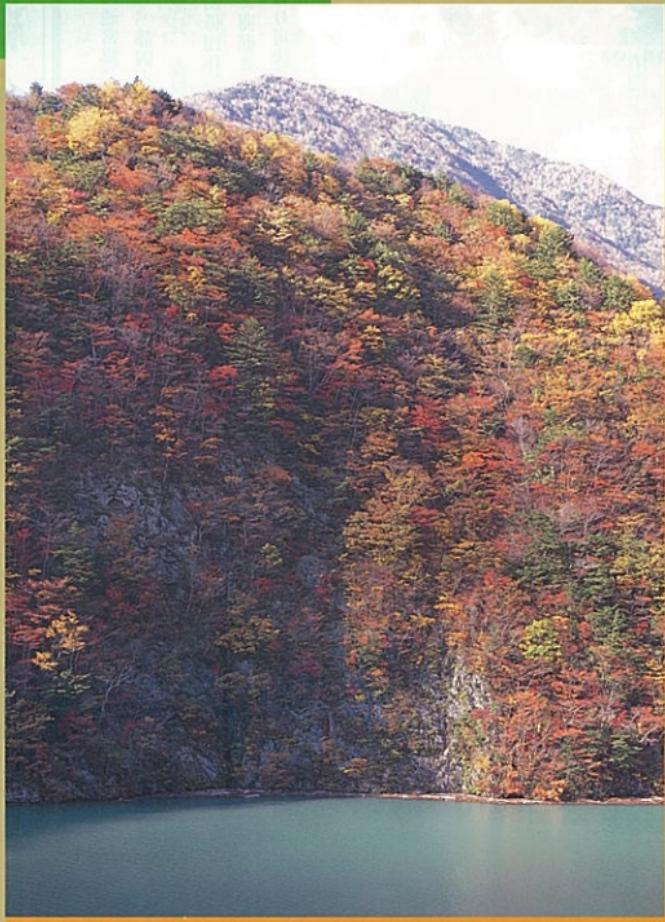


緑の宝

1997
秋号
No.5



田舎湖

目 次

第18回通常総会開催	P2	ランドスケープデザイン講座修了	P6
●コンクール表彰・会長表彰者一覧		我が国初の造園・環境産業展開催	P6~7
御挨拶	P3	富士山三七七六自然林復元大作戦展開	P7
●国際園芸博覧会準備室長 森延彦		話題の森・お知らせ・編集後記	P8
静岡国際園芸博覧会基本構想	P4~5		
環境系現場実習・打ち合わせ会の開催	P5		

通常総会開催

平成九年度の通常総会が四月三十日(水)

午前十時から、静岡市日興会館に於いて、

吉岡県環境部長、森県議会議員を初め、
県、公社、関係団体等多数の来賓の出席
を得て盛大に開催され、提出議案は全議
案が原案どおり可決承認された。

総会は、望月中部支部長の
開会宣言のあと、鈴木副会長が
挨拶を行った。会長はその中
で、昨年の協会創立三十周年
の「阪神淡路震災の記念講演」

18回通常総会

法人 静岡県造園緑化協会



福勝会長あいさつ

に習って今までの「事務所建
設積立預金」を「災害対策準
備預金」に変更させていたぞ
く旨を述べたあと、富士山麓
における子供の国の整備、小
笠総合運動公園整備、静岡空
港建設、全国植樹祭、しづね
か緑花祭、国際園芸博覧会な
ど県の大型プロジェクト、イ
ベントは我々の業界と密接な
関係のあるものばかりである。
これから会員全員が一丸とな
って、新しいニーズにあつた
緑化技術の研鑽に努め、地域
社会の要望に応え、緑豊かで
うるおいのある県土づくりに
貢献していくことを述べた。

に習って今までの「事務所建
設積立預金」を「災害対策準
備預金」に変更させていたぞ
く旨を述べたあと、富士山麓
における子供の国の整備、小
笠総合運動公園整備、静岡空
港建設、全国植樹祭、しづね
か緑花祭、国際園芸博覧会な
ど県の大型プロジェクト、イ
ベントは我々の業界と密接な
関係のあるものばかりである。
これから会員全員が一丸とな
って、新しいニーズにあつた
緑化技術の研鑽に努め、地域
社会の要望に応え、緑豊かで
うるおいのある県土づくりに
貢献していくことを述べた。

コンクール表彰者一覧

●業務上の功績が認められた
会員の従業員

◆第六回静岡県造園緑化協会
維持管理コンクール

●業務上の功績が認められた
会員の従業員



来賓あいさつの森県議会議員

会長挨拶のあと第六
回静岡県造園緑化協会

維持管理コンクール表
彰、労働者表彰(別記
のとおり)を行い、統
いて吉岡徹郎県環境部
長、協会の顧問でもあ
る自由民主党幹事長の
森竹治郎県議会議員よ
り祝辞があつた。

議事は福勝会長を議
長に選出して議事に入
り、第一号議案・平成
八年度事業報告、第二
号議案・造園緑化技術
の向上、緑化事業体制
の強化、経営体制の強
化、情報・啓蒙活動の
強化等を内容とした平
成九年度事業計画及び
取支予算案、第三号議
案・平成九年度入会金、年会
費額並びに納入時期及び方法
についてすべて原案通り可決
承認された。

そして第四号議案では、本
年一月逝去された協会専務理
事兼事務局長であった安積靖
之の後任に前県環境局長
川崎順一氏の選任が可決承認
され、新しい執行体制でスタ
ートすることとなつた。

了した。

組合衛生センター

御殿場市長 内海重忠

●会長賞
県立吉原高等学校
校長 川村敏彦

八橋公園
焼津市長 長谷川孝之
中遠聖元
船越堤公園
清水市長 宮城島弘正

曙公園
袋井市長 豊田舜次
沼津市長 宮城島弘正

八橋公園
焼津市長 長谷川孝之
中遠聖元
船越堤公園
清水市長 宮城島弘正

曙公園
白松太喜夫
沼津市長 宮城島弘正

曙公園
白松太喜夫
沼津市長 宮城島弘正

●永く造園業に従事され功績
が認められた会員並びに会員
の代表者

●(株) 富士植物園
(株) 三峰産業
(株) 原田造園
(株) 原田造園
(株) 原田造園
(株) キヤウブ

室伏幸恵
福島義憲
原田敢二郎
原田敢二郎
原田敢二郎
原田敢二郎



国際園芸博覽会準備室長

森 延彦

貴会員の皆様には、日ごろより、国際園芸博覽会の推進に多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、県では、昨年の九月の国際園芸協会の正式承認を受けて、本年三月には、この園芸博の推進の基本的な方向を指し示す「基本構想」を策定いたしました。

また、本年度末には、より詳細かつ具体的な「基本計画」を策定するなど、二〇〇四年の開催に向けて、着実にステップを進めているところであります。



国際園芸博覽会「ゲント・フロラリー」(ベルギー)

ルの創造を目指すことなどから、「花・緑・水」新たな暮らしが創造!』といたしました。

このようなかで、二十一世紀にふさわしく、歴史に残る博覽会をするために、地域からの御意見はもちろん、国内外の各界で広く活躍している人たちで構成される全国的な支援組織の「日本委員会」を本年六月に設置いたしまして、貴重な御提言を頂いたところです。

また、今後のP.R活動にかかる一般的な「シンボルマーク」の正式名称「シンボルマーク」のボランティアから、多くの企業や組織にいたるまで幅広い方々の御支援のもとに推進していくこととしております。

今後とも、国際園芸博覽会の推進に一層の御支援を賜りたいが、特に、豊富な経験と卓越した見識を有する貴協会の皆様の、「緑化のプロ」として

このテーマに基づき、様々な推進活動を全県的に展開し、参加者と主催者がともにつくりあげる「対話・創造・育成」型の博覽会していくことをとります。

芸博は、シニア・オリエンピックス、ワールドカップサッカー、国体など、今世纪から二十一世紀にかけて、次々に県内で開催される大型イベントの盛り上がりを受けながら、花と緑あふれる県土づくりの一歩の節目を飾る博覽会にしてまいります。

さて、この園芸博は、草の根もとより、園



キューケンホフ公園(オランダ)

開催テーマにつきましては、浜名湖の豊かな水景を生かして開催されることや、花と緑の持つ力を、まちづくりの推進、産業や文化・芸術の振興など様々な分野に取り込むこと、また、自然と調和のとれた二十一世紀のライフスタイル

のボランティアから、多くの企業や組織にいたるまで幅広い方々の御支援のもとに推進していくこととしております。今後とも、国際園芸博覽会の推進に一層の御支援を賜りたいが、特に、豊富な経験と卓越した見識を有する貴協会の皆様の、「緑化のプロ」として

ご支援、御協力は、從前

増して重要なものとなつてき

静岡国際園芸博覧会 基本構想

この「博覧会の主題」は、静岡国際園芸博開催の理念やテーマを国内外に向け発信し、多くの人々の共感を得て、多くの参加者を募るものである。

1 基本理念

静岡国際園芸博覧会の

基本理念



ベルリン植物園

広い分野で技術革新が展開され、人類の夢が次々と実現していく一方で、身近な、そして貴重な自然を新たな視点から見直し、人と自然との関わり方を真剣に探り、実践する時代、それが二十一世紀であるといわれています。

花・緑・水

基本理念に基づき、開催テーマを次のように定めます。

2 開催テーマ

花・緑・水
テーマ「花・緑・水」新たなる暮らしの創造」を、次の三つの基本方針に基づいて展開

受けたままの花や緑は、時代を超えて私たちを魅了する不思議な力が満ちています。季節を彩る花の色や香りからは潤いや安ら

ぎを、陽射しに映える緑からは大いなるゆとりや活力を感じることができます。

このような花と緑の力の活用こそ、調和のとれた豊かな文明を切り開く鍵になるものと考えます。

花と緑の持つ力を、まちづくり、技術革新、産業や芸術の振興など様々な活動の中に取り込み、自然との共生を中心に二十一世紀にふさわしいライフスタイルを創造することこそが、静岡国際園芸博覧会の目標です。

県民をはじめ国内外から集い、交流する多くの人々にとって、この博覧会が、花や緑の力を幅広く取り入れた新しい暮らしづくりの出発点となり、そしてそれが真に豊かな時代の創造につながっていくものと考えます。

花と緑とそれを育んだ水を介して、人と自然の関わりを見つめなおす舞台、そして様々な発見や創造を経て、「二十一世紀の人と自然の崇高な調和に挑む舞台」となります。



ハンブルグ公園

3 テーマ 基本方針

(1) 「世界に広がる花と緑の交流の輪づくり」
花と緑、つまり植物そのものの探究する人類の知恵、花と緑に接する行為である園芸や造園そのもの、植物をとりまく生態系としての自然環境

し、多様性のなかにも調和のある参加を目指します。

そして今後は、さらに幅広く深くテーマを探求し、より具体的なテーマ展開に取り組んでいきます。



ベルリン植物園

花と緑の持つ力を、まちづくり、技術革新、産業や芸術の振興など様々な活動の中に取り込み、自然との共生を中心に二十一世紀にふさわしいライフスタイルを創造することこそが、静岡国際園芸博覧会の目標です。

県民をはじめ国内外から集い、交流する多くの人々にとって、この博覧会が、花や緑の力を幅広く取り入れた新しい暮らしづくりの出発点となり、そしてそれが真に豊かな時代の創造につながっていくものと考えます。

花と緑とそれを育んだ水を介して、人と自然の関わりを見つめなおす舞台、そして様々な発見や創造を経て、「二十一世紀の人と自然の崇高な調和に挑む舞台」となります。



ハンブルグ公園

について、国内外の様々な人との交流を目指します。

● 植物の交流

花と緑を深く理解するための植物あるいは植物情報の交流。世界の植物紹介、植物の起源の探究、植物の生態など

● 園芸・造園の交流

世界の伝統的な園芸・造園文化や庭文化、最新の園芸・造園産業、園芸・造園技術の交流

● 自然の交流

花と緑に関連する世界の花と緑を深く理解するための植物の交流、花と緑のあるいは植物情報の交流。世界の植物紹介、植物の起源の探究、植物の生態など



キューブ植物園(鶴をねだって寄ってくる野鳥たち。)

様々な地域の自然環境や地球環境についての交流、水、大地、大気、気候、動物、虫など

● 花々の交流

花と緑のもつ魅力によって集う人々の交流。花緑と人の歴史など

● 産業の交流

花と緑を積極的に生活に取り入れるための異業種間の交流

(2) 「花と緑につつまれた新しい暮らしづくり」

花と緑によつて触発される人間の様々な生活

花と緑を活かした教育・文化の普及や、花と緑にあふれたライ

フスタイルの創造を目指しま

● 生活と花緑

服飾文化、食文化、茶文化、住文化、庭文化など

● 健康と花緑

健康と花緑、本筋文化、食文化、茶文化、住文化、庭文化など

● 健康と花緑

体の健康、心

を廻す花緑、草と植物などを

● 芸術と花緑

絵画、詩、音楽、文学、伝統芸能など

● 教育と花緑

自然の理解、自然を愛する心など

(3) 「花・緑・水をいかした魅力的なまちづくり」

世界のそれぞれの地域固有の歴史や文化を通じて、花と緑の魅力を認識し、様々な分野の技術の進歩を取り入れて、花と緑や水と調和した豊かで潤いのあるまちづくりを目指します。

● 住宅と花緑

屋上緑化、家具、エコハウスマなど

● 都市と花緑

街並み、広場、公園、道路、建築、水辺など

● 社会システムと花緑

廃棄物処理、リサイクル、防災、観光など

● 水辺と花緑

親水空間、ピオトープ、雨水循環など

● 健康と花緑

以上、先に発表になつた基本構想のうち、博覧会の主題(テーマ)を掲載したが次号に、事業の構想を掲載予定。

環境系現場実習 打ち合わせ会の開催

静岡県立静岡農業高等学校

(校長　木田士華殿)

では、環境系(土木・緑化・保全)

の二年生八十人の関連企業で

の体験学習を行うため、関連

企業、関連団体に対する協力

要請と研修目的、日程、実習

用件等の説明会が行われた。

この現場実習は、関連企業

の関連企業は、株式会社

西野建設

を主とする企業で、職業観

を養い、進路意識を高めさせ

るとともに、地域産業に生き

る職業人の育成を図ることが

目的。実習生受け入れは造園

建設業では、当協会の中西部

部所属の会員が二十七名を受

け入れることになった。

造園他十三社で、説明当日は

全社が出席し、九月九日から、

四日間の実習を行った。

造園建設業以外では、静岡

建設業協会が十二社で、二十九

名、清水建設業協会が五社で

十一名、静岡県環境保全協会

が四社で十三名を受け入れ

ことになった。協会会員十四

社で二十七名を受け入れる

が、若者も寄り付かないような職場の発展はあり得ない

が、今後、このような若者が

造園建設業に興味を持ち、地

元企業に就職してくれるこ

とが期待される。



ランドスケープ デザイン講座終了



熱心に聴き入る受講生

造園施工管理技師会主催による

(株) ランドアート社長

押原八朗氏を講師に迎えての
「ランドスケープデザイン講座」
は、厳寒の一月二十五日に初
回を開催し、都合十四回、五
十六時間にわたる長丁場の講
座で、猛暑の八月九日をもつ
て終了した。受講生のこれか
らの設計、あるいは現場での
勉強しようと初めて企画し
た「ランドスケープデザイン講
座は、協会会員以外からも多
数の受講申し込みがあり、初
回は四十四名であった。

毎月、第一、

第四土曜日の午

後、講座は、仕

事を休んでの勉

強会とあって、
途中で辞めざる
を得なくなつた

受講生、途中か
ら出席した受講
生、あるいは日
によって欠席せ
ざるを得ない受

講生などさまざ
まで、最終回は
二十九名であつ
た。

仕事のかたわ
ら七講座、五十

活躍が期待される。

よる (株) ランドアート社長
押原八朗氏を講師に迎えての
「ランドスケープデザイン講座」
は、嚴寒の一月二十五日に初
回を開催し、都合十四回、五
十六時間にわたる長丁場の講
座で、猛暑の八月九日をもつ
て終了した。受講生のこれか
らの設計、あるいは現場での
勉強しようと初めて企画し
た「ランドスケープデザイン講
座は、協会会員以外からも多
数の受講申し込みがあり、初
回は四十四名であった。

毎月、第一、

第四土曜日の午

後、講座は、仕

事を休んでの勉

強会とあって、
途中で辞めざる
を得なくなつた

受講生、途中か
ら出席した受講
生、あるいは日
によって欠席せ
ざるを得ない受

六時間の皆出席が十五名もあ
ったことは、受講生の並々な
うぬ意気込みと業界発展を願
う経営者の理解によるもので
ある。

講座は「植栽のデザイン」
「石組みと築山のデザイン」
「滝組みのデザイン」「流水と
池のデザイン」「園路と飛石
のデザイン」「つくばいのデ
ザイン」「トータルデザイン」
の七編で一編が八時間。

テキスト、ゴム粘土、石、
木の枝等を使って実習主体の
講座で、人の作品のぞき込
んだり、自分なりのデザイン
で模型の作品を作り上げ、視
線を上げたり下げたり、巡回
指導の講師に質問を浴びせる
受講生などさまざままで、会場
はなごやかな中にも熱気がみ
なぎつていた。

昨今のビオトープの創出も
単なる自然の復元でなく、そ
こにはデザインも求められて
いる。これから建設者が進め
ようとしている多自然型工法
に於ける石組みにもかつての
河川風景流れの復元が求め
られている。今回の講座はこ
れらの事業推進におおいに貢
献できるものと期待されてい
る。

業局・環境緑化新聞社主催に
よる我が国初の造園・環境分
野を対象とした専門見本市、
造園環境産業展「エコグリ
ーンテック'97」が五月二十七日
から三十日までの四日間、東
京晴海のHARUMIドーム
で開催され、連日大勢の人
員が見物や取引を行なつた。
環境緑化新聞によると出展
数は、屋内・野外パネル展示
から三十日までの四日間、東
京晴海のHARUMIドーム
で開催され、連日大勢の人
員が見物や取引を行なつた。
環境緑化新聞によると出展
数は、屋内・野外パネル展示
から三十日までの四日間、東
京晴海のHARUMIドーム
で開催され、連日大勢の人
員が見物や取引を行なつた。



会場入り口の様子

私は中部地区の開催であ
つたが、第二段として同様の
講座を西部地区で計画中であ
る。西部地区では、行政機関
も一緒になつて発注者側と施
工者側が同步調で勉強でき
ないものかと検討中である。

今月は中部地区の開催であ
つたが、第二段として同様の
講座を西部地区で計画中であ
る。西部地区では、行政機関
も一緒になつて発注者側と施
工者側が同步調で勉強でき
ないものかと検討中である。

我が国初の 造園・環境産業展開催

から三十日までの四日間、東
京晴海のHARUMIドーム
で開催され、連日大勢の人
員が見物や取引を行なつた。
環境緑化新聞によると出展
数は、屋内・野外パネル展示
から三十日までの四日間、東
京晴海のHARUMIドーム
で開催され、連日大勢の人
員が見物や取引を行なつた。
環境緑化新聞によると出展
数は、屋内・野外パネル展示
から三十日までの四日間、東
京晴海のHARUMIドーム
で開催され、連日大勢の人
員が見物や取引を行なつた。

会ととなり、入場者
も一万二千人に達
した。

後援団体の一員
として名を連ねた
協会も情報収集の
ため会場を訪れ
た。

産業展の総合チ
ームは「エコミニ
ニケーション」で、
生態系を中心的に動
植物と環境との関
係を研究する生態

学、いわゆるエコロジーの「エコ」と交流の「コミュニケーション」の造語で、「二十一世紀に向けて、人と自然と都市の在り方を探る意味を含めたもの。



高所作業台

会場には、木便や屋内、屋上の緑化資材、多自然型の川づくりのビデオ上映や資材、土壤改良材、剪定枝条のリサイクル機材、精算のソフトウェアなど造園・環境産業界を網羅する出展物が来場者を迎えていた。

本県からは最近のビオトープアームを反映して富士見グリーンエンジニアリング(株)がフジミ・ビオトープシステムを展示し、勉強に訪れた関係者でにぎわっていた。

次回の開催は未定であるが、関係者は一見に値する催し物である。

富士山三七七六 自然林復元大作戦展開

富士宮市は市政五十五周年記念事業として、東京宮林局は

昨年九月の台風災害跡地の復旧事業として三者共催で開催された。

記念式典で石川知事は「富

士山は、山麓に住む人々にと



県では総合的かつ長期的視野に立った富士山の環境保全対策を推進するため、平成七年度に「富士山総合環境保全指針」を策定しており、今回の大作戦は、指針に沿って広大な自然林を復元しようとの検討している富士山〇〇〇年プロジェクト三七七六構想実現の第一歩として、また、

富士宮市の主催による「富士山三七六自然林復元大作戦」が六月八日、富士宮市栗倉の標高千メートルの富士宮市有林で展開され、一般公募に応募した県民、ボランティア団体約千人が参加し、ブナやミズナラ、ケヤキなど十三種類の広葉樹三、七七六本の植栽に汗を流した。

自然林復元大作戦も、この中の重要な一環をなすもので、本日の活動が全県、全国に広がっていくのろになるはず」と挨拶をしていくのろに続いて高橋幹林野庁長官は「昨年の台風で国有林は、もう少しで伐採できる三十年、四十年のヒノキの造林地が大被害を受けた。木材生産の目的だけでスキヤヒノキだけを植えるやり方は技術的に考えると問題

つて大変な恵みをもたらしていながらでなく、美しい姿や豊かな恵みは、地元の静岡人が想像する以上に日本の人々や世界の人々のあこがれの対象となっている。この偉大さを改めて認識し、その恵みを後世に継承しなくてはならない。県では昨年「富士山総合環境保全指針」を定め、今後総合的な角度から富士山の環境を豊かにしていこうと考えております。この



があると考えられる。今後、富士山の特徴を入れて広葉樹と針葉樹が混じったような山を作つていつたらいのではないか。そして国民の皆様に支持される森林づくりを考えていきたい」と挨拶があった。この作戦に当協会から地元富士宮市の小林造園の小林社長も参加し、一般参加者の指導に汗を流した。

広大な森林を地権者、国民、県民の理解と協力を得ながら理想的の森林とするには〇〇〇〇年以上の長いプロジェクトとなりそうだ。

